

合格おめでとうございます

2009. 2. 8 日曜日

春子ちゃん(仮名)は日頃は非掲載生徒さんですが、今回はお願いして、特別に許可を頂くことができました。

以下は彼女の合格までの軌跡です。

[概要]

学習期間16ヶ月

通算学習回数74回

週一回2時間学習

スタート時算数偏差値38

合格校偏差値50

(四谷大塚偏差値表80より)

はじめてメールいたします、田中(仮名)と申します。

以前からこちらのブログを拝見させていただいて、こちらで教えていただけたらいいなあとずっと思っておりました。

自宅の最寄り駅はJR〇〇で、娘の体力のことなどを考え、通うのはむずかしいかもとあきらめかけていたのですが、どうしても先生に娘をみていただきたいとの思いが、日に日に強くなりましたのでご相談申し上げます。

(中略)

今の娘の学力では、集団授業のペースについていくのは不可能と思われ、近所の大手の個別指導塾を体験などもしてみましたが、娘の実力に合わせて、基本を徹底的に教えてくれるところには巡り会えませんでした。

今のところ、どの単元が苦手、という以前の状況にあります。

小学校では算数が大好きだったのに、今では大嫌いになってしまいました。

ぜひご相談だけでも、よろしくお願いいたします。

(“中略”と固有名詞以外は原文のまま)

このようなメールが2007年のある日に届き、お会いすることになりました。

お母様は、5年生夏にもかかわらず、基本レベルさえおぼつかない状況を冷静に受け止め、ご自身が中心になってお子様をリードしてゆこうと決意し、そのためには具体的に何をすべきかのご相談にみえたのです。

そして、5年生10月から家庭塾での春子ちゃんの学習が始まりました。

(少ししてから、周りからの刺激効果を期待すべく、大手進学塾[週3回]にも入ります)

こちらでは、進学塾授業の予習を担当することになりました。

使用教材は四谷の基本レベル「計算と一行問題集」です。

春子ちゃんは「数の学習」が得意で、暗記カードの覚えも早いのですが、文章題になると、文字通り“一行”でないとしり込みしてさっさと諦め、“わかりません”を連発します。

しかしそのようなお子様は珍しくはないので、一行問題を二周繰り返す→さらに自己解説をさせる、を毎回やりました。

そして、塾のカリキュラムをこなすことに目的がすり替わってしまうと、見切り発車によるジリ貧が必至なので、入試日に照準を合わせて、基本問題の正解率を伸ばすことを目標にしました。

およそ一年後の6年生秋以降、今までにないことが起こりました。

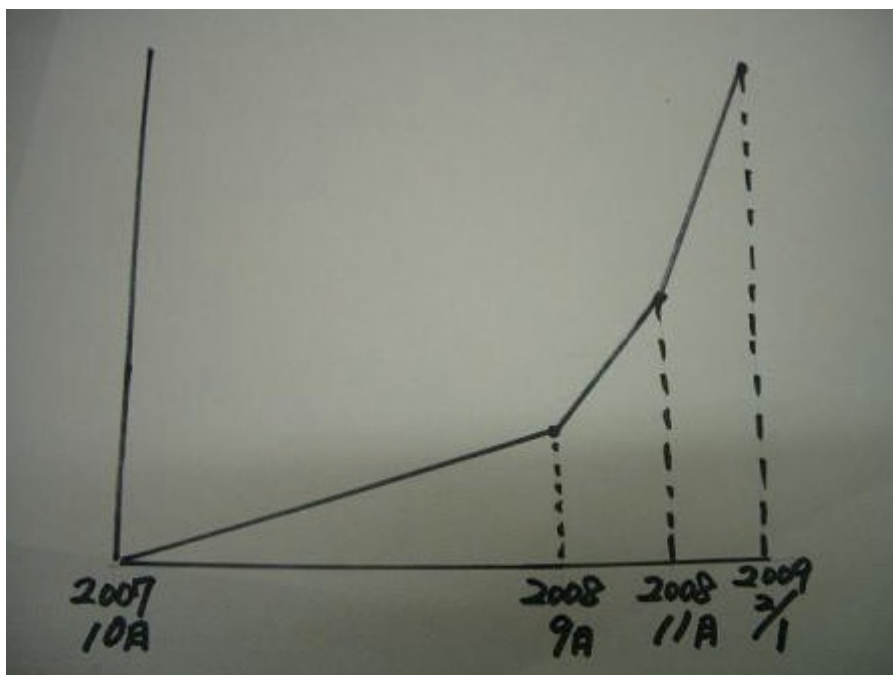
2時間の学習時間が、最後のほうにいつも余ってしまうのです。

「計算と一行問題集」が、そのとき一問1～2分で、正解率が95%と、格段の進歩を見せていました。

ここへ来て、やっと次のレベルにすすむことができます。

こうして書いてみると、一気に伸びたのは受験前のわずか2～3ヶ月です。

大雑把に図に示すとこうなります。↓



主役はもちろんお子様です。

しかし、お子様に匹敵する立役者はお母様です。

お母様の良かった点

1. 自分の子どもの実力を冷静に見ることが出来た。
2. 通っている進学塾の宿題をこなすことに汲汲(きゅうきゅう)とせず、お子様の実力に適正な問題だけ徹底的にやった。
3. 家庭塾の復習のみならず、他教科の学習管理もしっかり出来ていた。

最後の一ヶ月間の春子ちゃんの勢いはすごく、そのエネルギーに圧倒され、学習がおわると私がふらふらになることがよくありました。

新年になってからの、こちらからの学習ご報告のメールにはこう記されています。
(この頃はもう中レベル問題に進んでいます)

速さ、水量の未解決問題 6 問、立体数問を終わりました。
80%正解です。
馬力ありますね。
こちらがへたばりそうです...

今伸び悩んでいる4,5年生の保護者の皆様へ

現在取り組んでいる問題の正解率が、長期間(1~2ヶ月以上)にわたり伸びる兆しが見えない場合、お子様にはおそらく取り組む問題が難しすぎるのだと思います。
後で必ず伸びますから、前段階のレベルに引き下げて自信を育ててください。
そのほうが結局近道です。



もうおひとりに登場していただきます。

入れたところが入るところ(結果ご報告も)

こちらでは6年生への授業はもうありませんが、入試直前の今日(2009年1月29日)、Fちゃんとお母様が立ち寄ってくださいました。



こちらの授業前の、ほんの僅かな時間です。

F母「来る前に、2006年からのわが子のブログを全部見返してきました。
ネットで偶然見かけてご縁を得て、Fはそれまでの勉強アレルギーが消えて、それだけでもよかったです」

面談にいらしたお母様の、切羽詰ったあのときの様子が甦ってきました。

「遅きに失した」ということがないように、先手を打って勉強関係の習い事や塾の手当てをしたつもりが、段々元気がなくなっていくわが子を見て、どうしたらよいのかと困惑していたようです。

塾にお迎えに行ったあるとき、先生から「お宅のお嬢さんはしつけがいいですね。授業が終わると教室内のすべての机の位置を整えて、整頓して帰るんですよ。そんなお子さんは初めてです」というお褒めの言葉をもらいます。

帰りの車を運転しながら、わが子が不憫で涙が出ました。
7歳や8歳の子どもが、教室の整頓なんてしたいものか。
この子は塾で居場所がないのだ。だから認められたいがために過剰適応している。

ここへ来てようやく「もういい。もう止めだ」と決心がつきます。

そして勉強関係の習い事をすべて辞めます。
でも少しだけ心配が残っているので、どこかにあるに違いない「この子に合った塾」を探し求めていました。

お母様は2時間にわたり、泣きながらお話ししてくださいました。

能力は十二分に備わっていると見ましたが、当初は確かに「もう、うんざり」という感じでした。ですから宿題を出さず「家では極力遊ぶ」を課題としました。

5年生時は週に2回こちらで学習をしました。

6年生になると週に4回の進学塾が加わりました。

運悪く曜日が重なってしまったので、家庭塾では一時間しか学習時間を持つことが出来なくなりました。

暗記カードはダントツです。

単位交換も学校で一番になりました。

口述方程式の記録を誰も更新できません。

進学塾での勉強も、宿題を欠かさずやり一生懸命についていくように変身しました。

神様！どうかこの子に幸あれ。



Fちゃん、第一志望校合格おめでとうございます。

合格のご連絡のとき、なんと私は早々と家庭温泉を楽しんでいたのです。

しかし今年度は受験生が多く、気が気ではないので風呂場に携帯電話を持ち込んでいました。

雑踏と喧騒の中、ほとんど悲鳴に近い喜びの声。

Fちゃんの努力、そして何よりも長年心をくだいてきたお母様のことを思い涙が溢れました。

この2年、分からない問題に直面すると、とても遠慮して申し訳なさそうになるFちゃんを変えたいと腐心しました。

Fちゃんのかかえている劣等意識は、傍目にはとても分かりにくい形で内在しているため、こちらも心して掛かる必要があったのです。

「覚えるのが早い」点を利用して、「単位交換部門で校内一位を取ること」からコツコツはじめました。

途中で加わった進学塾もおおいに功を奏しました。

2年間休むことなく、時間ぴったりに送迎をしてくださったお母様に、功労賞を差し上げたいと思います。

長いことお疲れ様でした。

そしてこのたびは本当におめでとうございます。